

アニメーションのオープニング（OP）とエンディング

（ED）から読み取る視聴者の想像性への一考察

竹内祐貴

近年サブスクリプションの OP、ED のスキップ機能やアニメの流し聞きや楽曲が好きな理由に関してノリが良いからなどの表面的な理由が上げられることが想像できる。しかし、アニメの OP と ED から本編の内容を示唆できる考察がネット上で飛び交っている。本研究では視聴者がアニメの OP と ED を通して、アニメ本編の内容を「想像」し「推測」できるのはなぜなのかを考察した。

考察する上でアニメの映像とアニメソング（アニソン）の変遷を確認した。映像は 2000 年にアナログからデジタル技術に変化し、アナログ技術を踏襲した上でより細かい部分まで繊細に表現できるようになった。アニソンの初期は童謡の認識が強かったが、1990 年にタイアップ曲が登場した。しかし、アニメ本編の内容に寄り添った歌詞となったのは 2010 年以降だった。

どのような点でアニメ本編の内容を示唆できるかを映像、音楽、映像と音楽の 3 つの観点から考察した。映像に関しては、物事の関連性と付加価値と疑念を抱くことができる映像表現が考察上必要な要素だと考える。音楽に関しては、近年のアニソンの歌詞は昔よりも抽象性が高い歌詞になることで歌詞の解釈について考察することができる。映像と音楽に関しては複数のメディアを同時に処理するため、お互いの情報の調和が重なることで情報をクリアに認識することができる。

実験ではアニメの OP、ED を見せ、ブレインストーミング形式で映像を見た後、5 分間感想を述べてもらった。結果として、被験者がアニメをあまり見ない傾向のため、映像を見せたアニメ本編の内容を把握していないことから、本編の内容を示唆するような回答は挙げられなかった。その中でも映像で登場する人物が持っている持ち物は物語上、重要な要素になるのではないかという回答が見られた。

以上の実験からアニメの OP、ED からアニメ本編の内容は示唆できるものにはなっていない。しかし、アニメ本編の内容を把握することが OP と ED の映像と音楽から本編の内容を考えることはできないと言える。